



申2号「仙台支社での現業機関における柔軟な働き方の実現について」 に関する申し入れ団体交渉③

～No.18 (6項)の続き～

- (組合) 分けるべきという、具体的問題意識について述べる。3点ある。1点目が、この間の労使協議等の変更に繋がりがねない。平成15年「仙台運輸区等設置に関する議事録確認」に「(組合) 今後の乗務員基地のあり方についてどのように考えているのか。(会社) 今後とも、更なる効率的な乗務員運用及び職場の活性化等を勘案し、乗務員基地の統廃合や新設を検討していくことになるが、明らかになりしだい提示していくこととする。その際、安全・安定輸送の確保の観点から、異常時の即応体制や乗務担当区間の見直しなどについても検討することとしている。なお、一部の区所において、用地の流動化計画に伴う移転等が検討されているが、具体化するにあたっては上記の考え方を踏まえることとする。」とあるが、今提案によって、仙台運輸区の乗務範囲、宮城野運輸区の乗務範囲は統合するという認識なのか。
- (会社) 基本は一つの現業機関なので、可能性はある。必要な教育は行う。列車ダイヤがあり、車両運用を決め、乗務員運用を行う。乗務行路は列車ダイヤに関係するので、これから検討することとなる。ダイヤができしだいとなる。効率的な運用にできることは良い事である。
- (組合) 2点目が、指揮命令系に影響する懸念がある。相互運用すると出勤する場所が変わる可能性があり、勘違い等の発生が懸念される。また、異常時などは、どこの指示を受けるのか。列車運転時は、輸送指令の指示になるが、乗務中以外の時の指示はどこから受けるのか。
- (会社) 出勤箇所の指示を受けることとなる。
- (組合) 関連して、ダイヤ改正などの提案時は、現在、出面数で示されているが、仙台エリア統括センター(仮称)となれば、仙台乗務業務ユニットと宮城野乗務ユニットで分けて、出面数を示すのか。
- (会社) 同じ現業なので、全て一つで示す。
- (組合) 3点目が、業務の融合で、仙石線「多賀城駅」と新幹線駅「白石蔵王駅」の相互運用は負担となる。これに関しては、小牛田統括センターの石巻線「石巻駅」と新幹線駅「くりこま高原駅」もあるが、しかし、小牛田運輸区の乗務員ならまだしも、宮城野運輸区の乗務員が、白石蔵王駅の業務を行う事にはメリットは感じない。左沢線営業所に関しては、マイレール意識があったからこそ、多様な業務を行ってきていると認識している。
- (会社) 白石蔵王駅と仙台駅で、ワーキンググループを管理者だけでなく、一般社員でも行っている。効率的な運用なのか、今後、トライアルに入っていく。輸送に関しては、仙台、岩沼、白石蔵王において違った業務内容で行っており、担当社員の幅を広げることができる。
- (組合) 輸送で言えば、取り扱い誤りが多くなってきている。大事故につながりかねない。
- (会社) 安全意識とチャレンジ精神がある。マニュアルづくり等、歯止めとなるものをつくり、活用できるようにしていく。
- (組合) 仙台、岩沼、白石蔵王駅は仙台関係、宮城野関係と分けても、同じ統括センターとなる。申し入れ項目どおり、私たちとしては、安全・安定輸送の観点やお客さまサービス・現場モチベーションの視点、業務の融合を踏まえ、東北本線関係職場及び白石蔵王駅と、仙石線関係職場を分けるべきである。一致しないので、再度、対立を確認する。検証をしていく。
- (会社) 様々課題はあるが、効率的な運用を行っていく。

(7項) この施策に関連したところでも、あらゆる視点で公正・公平な取り扱い・運用などを行うこと。

(回答) 就業規則等に則り取り扱うこととなる。

(組合) こちらも7月28日に議論しているので、引き続き、必要に応じて議論させていただく。

(会社) 了解。

(8項) この施策に関連したところでも、不具合がある場合は、その都度、見直すこと。また、必要な労使協議を行うこと。

(回答) 具体的な提起があれば、「労使間の取扱いに関する協約(令和3年10月1日締結)」に則り取り扱うこととなる。

(組合) こちらも前項同様に7月28日に議論しているので、引き続き、必要に応じて議論させていただく。

(会社) 了解。